

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

□ 正答率の状況 □

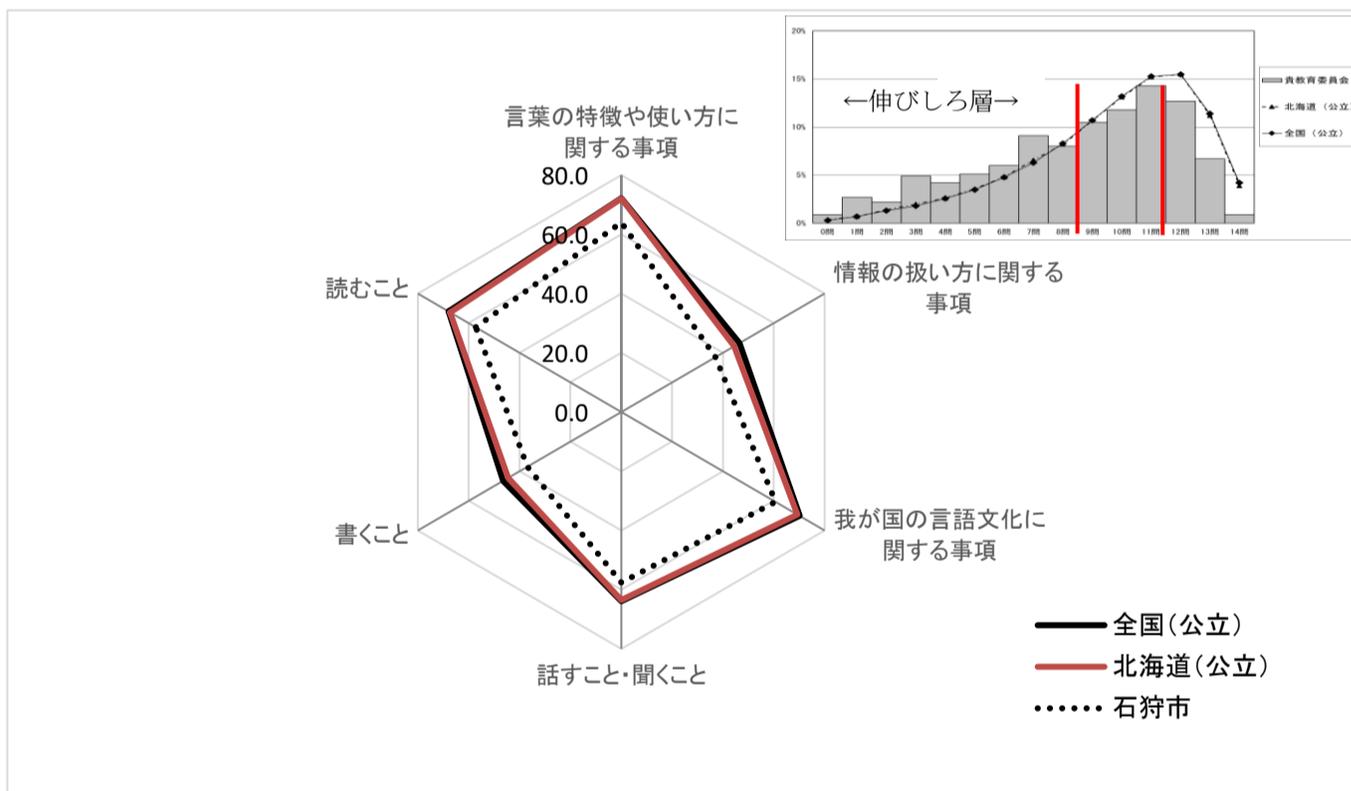
	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.7問/14問	69.0%
全道(公立)	9.6問/14問	69.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ同様) (上位)	同様	(ほぼ同様) (下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○					☆				
全国 : ☆									○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □

「正答数分布グラフ」



□ 国語科の概要 □

- ◇国語の正答率は全道・全国より、相当低い結果となりました。令和3年度との比較では、全国との差は広がる結果となりました。
- ◇領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域はともに全道・全国よりも低く、「読むこと」は相当低くなりました。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国よりも低く、「短答式」「記述式」は全道・全国より相当低い結果となりました。

国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている次の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

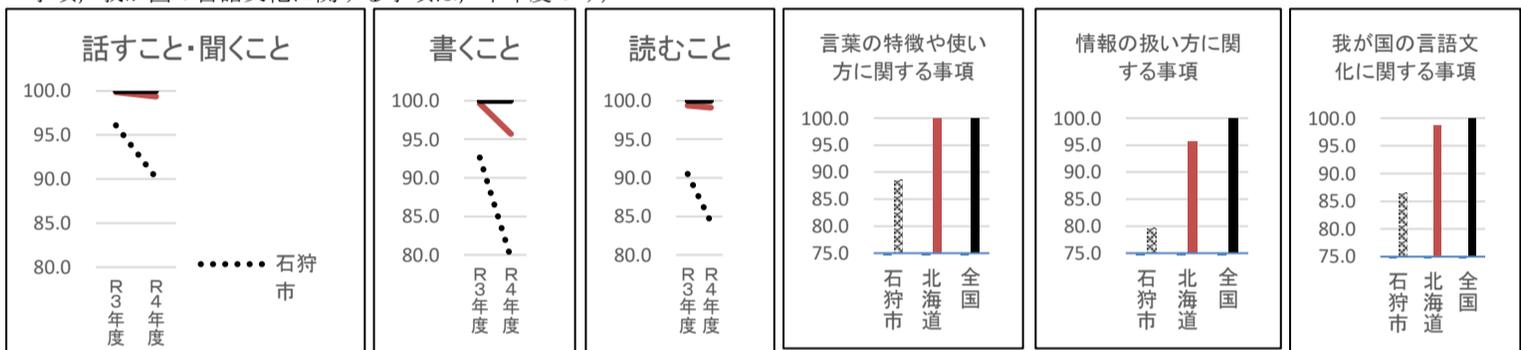
〔思考力、判断力、表現力等〕

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

(例)

- ・スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す。
- ・意見文の下書きの一部について、文末の表現を見直す意図として適切なものを選択する。
- ・「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。
- ・行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
- ・問題数は14問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較（但し、言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項は、本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・情報の扱い方に関する事項は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・我が国の言語文化に関する事項は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する。	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4%	81.5%	82.3%
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する。	事象や行為、心情を表す語句について理解する。	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.2%	84.8%	84.0%
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する。	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。	我が国の言語文化に関する事項	79.3%	89.0%	90.1%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。	書くこと	37.0%	44.5%	46.5%
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える。	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。	読むこと	51.9%	61.7%	62.0%

【指導の改善にあたって】

【問題番号2三 書くこと】

意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切です。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要です。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述できるように指導することが重要です。

【問題番号3三 読むこと】

文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが重要です。その際、心情を表す言葉に注目したり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりできるように指導することが大切です。

【教科（国語）に関する意識（生徒質問紙項目49～52，国語1より）】

(49) 「国語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の63.7%，全国の61.9% に対して石狩市は、63.2% で全道より0.5ポイント低く、全国より1.3ポイント高くなっています。

(50) 「国語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の92.7%，全国の93.2% に対して石狩市は92.7% で、全道と同じ、全国より0.5ポイント低くなっています。

(51) 「国語の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の82.4%，全国の81.2% に対して石狩市は76.8% と、全道より5.6ポイント低く、全国より4.4ポイント低くなっています。

(52) 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は全道の88.8%，全国の89.7% に対して石狩市は87.6% で、全道より1.2ポイント、全国より2.1ポイント低くなっています。

(国1) 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の75.6%，全国の77.3% に対して石狩市は67.7% と、全道より7.9ポイント、全国より9.6ポイント低くなっています。関連して、3問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の14.6%，全国の12.8%に対して石狩市は23.6%で、全道より9.0ポイント、全国より10.8ポイント高くなっています。

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

□ 正答率の状況 □

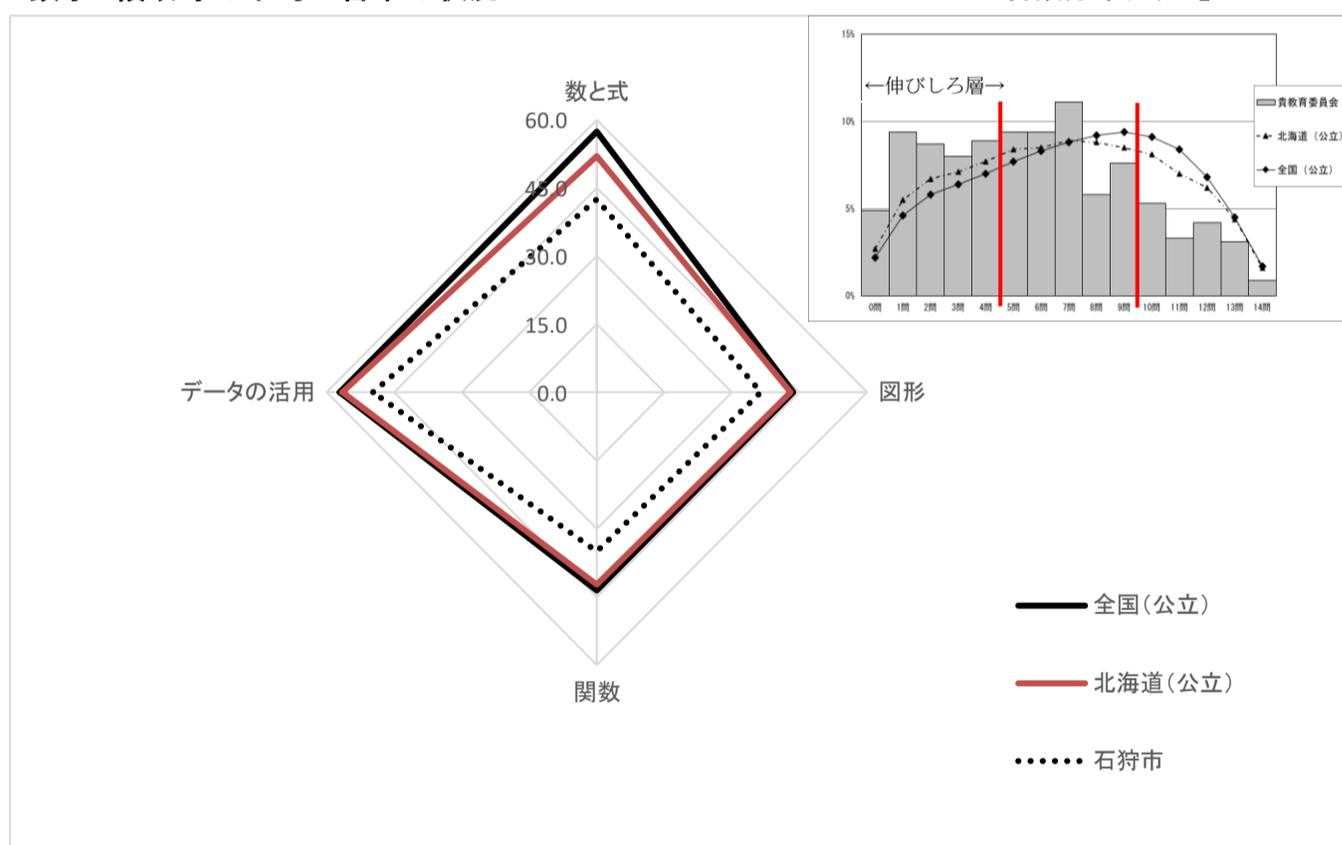
	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	7.2問/14問	51.4%
全道(公立)	6.9問/14問	49.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆					○
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域等の平均正答率の状況 □

「正答数分布グラフ」



□ 数学科の概要 □

- ◇数学の平均正答率は、全道より相当低く、全国より相当低い結果でした。令和3年度との比較では、全国との差は広がる結果になりました。
- ◇領域別では、「数と式」は全道・全国より相当低い結果でした。「図形」は全道より低く、全国より相当低く、「関数」は全道・全国より相当低く、「データの活用」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」「記述式」はともに全道・全国より低く、「短答式」は全道・全国より相当低い結果でした。

数学

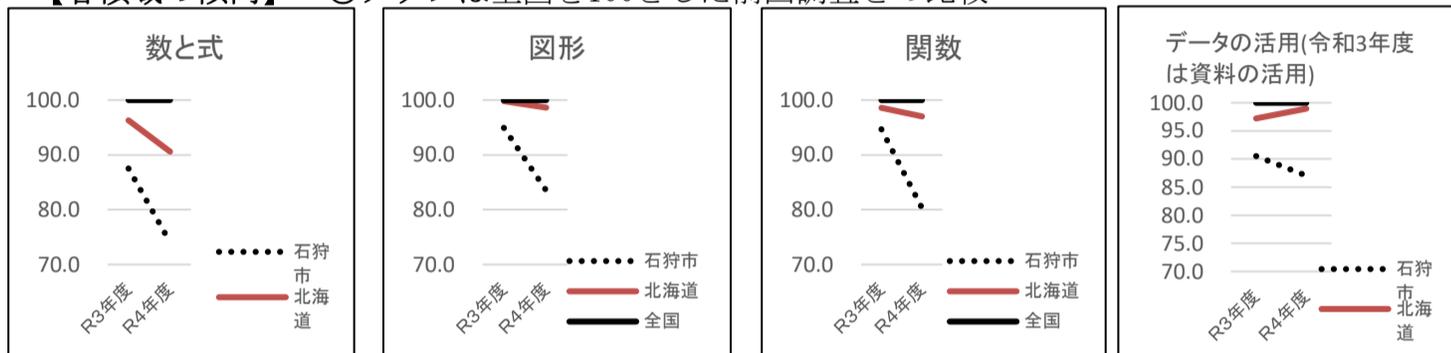
○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- ・連立二元一次方程式を解く。
- ・変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。
- ・容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ。
- ・コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する。
- ・与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く。
- ・証明で用いられている三角形の合同条件を書く。
- ・問題数は14問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「数と式」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ。	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。	データの活用	77.5%	82.1%	83.3%
6 (1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く。	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	数と式	65.9%	73.2%	73.8%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1	42 を素因数分解する。	自然数を素数の積で表すことができる。	数と式	24.5%	35.8%	52.2%
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する。	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。	数と式	27.2%	36.1%	37.6%
8 (2)	目標の 300kg を達成するまでの日数を求める方法を説明する。	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	関数	25.6%	35.6%	38.4%

【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
9 (2)	∠ABEと∠CBFの和が30°になる理由を示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成する。	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。	図形	7.3%	52.8%	12.2%	42.5%	12.5%	38.5%

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号1 数と式】 事象を数や式を用いて考察する場面では、数を和や積に表すなどして数量の関係を捉え、事象の特徴を読み取り、説明することが大切です。この設問では、自然数を素数の積で表し、素因数分解ができるように、数に関する性質を説明できるように指導することが大切です。</p> <p>【問題番号6 (3) 数と式】 数に関する事象を考察する場面において、成り立つと予想される事柄について数学的に説明することを求めています。説明する際には、前提として、差が4の倍数である2つの偶数の和であることや差が8や12である2つの偶数の和であることなどを示すことができるように指導することが大切です。</p> <p>【問題番号8 (2) 関数】 グラフを用いる場合は、y座標が300のときのx座標を読むこと、式を用いる場合は、y=300を代入してxの値を求めること、表を用いる場合は、求めた割合を基に目標の300kg削減を達成するまでのおよその日数を算出できるように指導することが大切です。</p> <p>【問題番号9 (2) 図形】 図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切です。この設問では、長方形と正方形によってできる図形の性質を見だし、それが成り立つことを合同な図形の性質などを用いて考察できるように指導することが大切です。</p>

【教科（数学）に関する意識（生徒質問紙項目53～60，数学1より）】

(53)	「数学の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の54.9%、全国の58.1%に対して石狩市は、59.6%で全道より4.7ポイント、全国より1.5ポイント高くなっています。
(54)	「数学の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の85.5%、全国の86.6%に対して石狩市は86.0%で、全道より0.5ポイント高く、全国より0.6ポイント低くなっています。
(55)	「数学の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の73.5%、全国の76.2%に対して石狩市は73.8%と、全道より0.3ポイント高く、全国より2.4ポイント低くなっています。
(56)	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の75.0%、全国の76.5%に対して石狩市は77.6%で、全道より2.6ポイント高く、全国より1.1ポイント高くなっています。
(57)	「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」についての肯定的な回答は、全道の43.4%、全国の47.3%に対して石狩市は47.0%で、全道より3.6ポイント高く、全国より0.3ポイント低くなっています。
(58)	「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について、肯定的な回答は、全道の73.4%、全国の75.2%に対して石狩市は72.3%と、全道より1.1ポイント、全国より2.9ポイント低くなっています。
(59)	「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」について、肯定的な回答は、全道の67.8%、全国の70.2%に対して石狩市は67.2%と、全道より0.6ポイント、全国より3.0ポイント低くなっています。
(60)	「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」についての肯定的な回答は、全道の80.0%、全国の79.6%に対して石狩市は81.3%と、全道より1.3ポイント、全国より1.7ポイント高くなっています。
(数1)	「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の48.9%、全国の53.48%に対して石狩市は44.5%と、全道より4.4ポイント、全国より8.9ポイント低くなっています。関連して、5問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の25.0%、全国の22.1%に対して石狩市は34.2%で、全道より9.2ポイント、全国より12.1ポイント高くなっています。

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 理科】

□ 正答率の状況 □

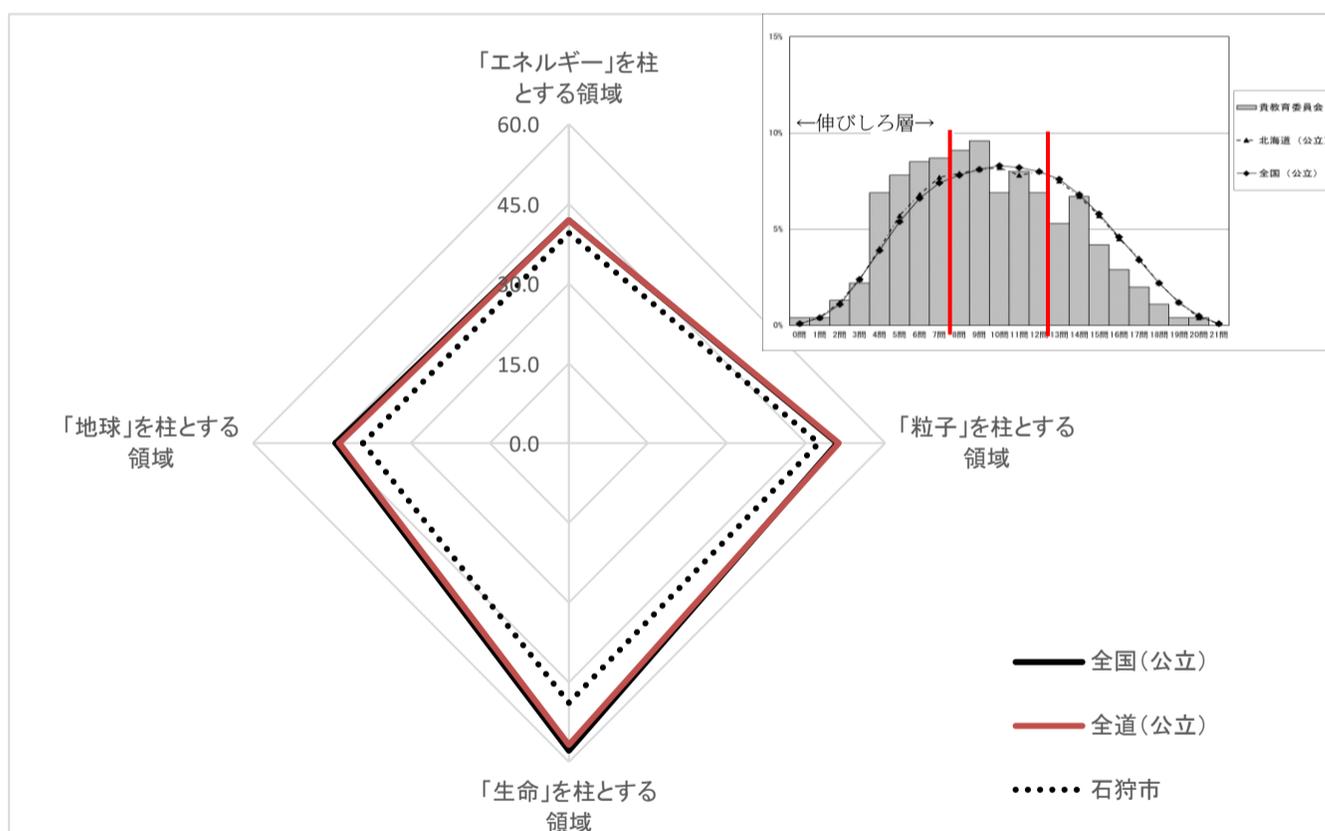
	理科	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	10.4問/21問	49.3%
全道(公立)	10.3問/21問	49.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆					☆			○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 理科 領域等の平均正答率の状況 □

「正答数分布グラフ」



□ 理科の概要 □

- ◇理科の平均正答率は、全道・全国より低い結果でした。平成30年度との比較では、全国との差は広がる結果になりました。
- ◇領域別では、「『エネルギー』を柱とする領域」は全道・全国とほぼ同様(下位)でした。「『粒子』を柱とする領域」は全道・全国よりやや低い結果であり、「『生命』を柱とする領域」は全道・全国より相当低い結果であり、「『地球』を柱とする領域」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」「短答式」は全道・全国よりやや低く、「記述式」は全道・全国ともに相当低い結果でした。

理科

○調査問題の内容

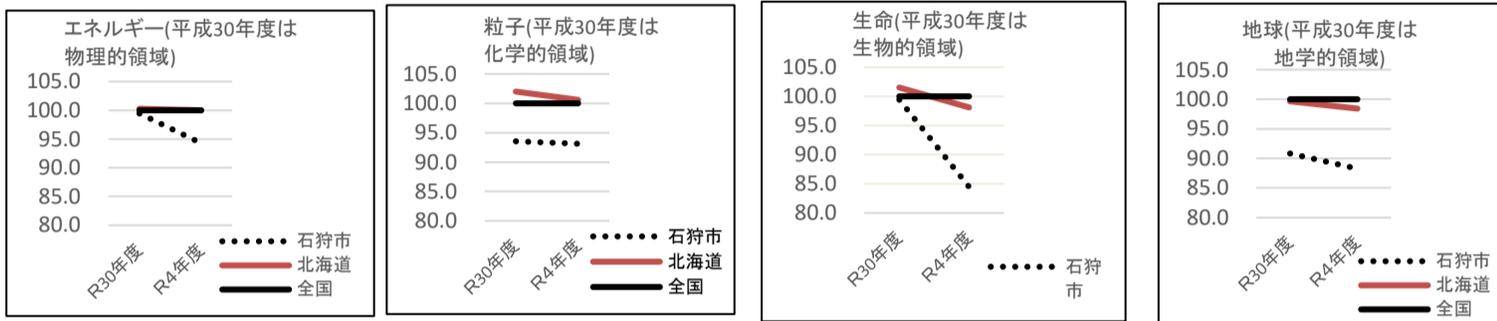
学習指導要領の目標及び内容に基づき、第1分野の「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域、第2分野の「生命」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域からバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する。
- 観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する。
- 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。
- アリの視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。

・問題数は21問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- 「エネルギー」を柱とする領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- 「粒子」を柱とする領域は、全道より相当低く、全国より低い傾向を示しています。
- 「生命」を柱とする領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- 「地球」を柱とする領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する。	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。	エネルギー	76.4%	79.9%	78.5%
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。	粒子	73.7%	80.2%	80.1%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。	地球	24.3%	27.7%	28.5%

3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。	エネルギー 粒子	21.2%	24.6%	24.8%
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する。	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。	エネルギー	12.0%	12.8%	15.3%

【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する。	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる。	エネルギー	36.5%	40.5%	42.8%	31.2%	43.3%	29.4%

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号2 (3) 地球】 気象とその変化の学習では、継続的に気象観測を行い、時間的・空間的な見方を働かせながら、気象要素と天気の変化を関連付けることが大切です。授業では、実感を伴った理解を図るために、観測データや空の様子を撮影した画像をネットワーク上に蓄積、共有して、考察することが考えられます。</p> <p>【問題番号3 (3) エネルギー・粒子】 理科では、身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えることが大切です。授業では、身近な事象として水素を燃料として使うしくみの例を取り上げた学習場面を設定するなど、化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付けて、科学的に探究することも考えられます。</p> <p>【問題番号5 (1) (3) エネルギー】 科学的に探究する活動を通して見いだした規則性や関係性を、日常生活や社会と関連付けることで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切です。授業では、見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究することが考えられます。</p>

【教科（理科）に関する意識（生徒質問紙項目61～69，理科1より）】

(61)	「理科の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の64.7%，全国の66.4% に対して石狩市は、65.8% で全道より1.1ポイント高く、全国より0.6ポイント低くなっています。
(62)	「理科の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の74.8%，全国の76.8% に対して石狩市は71.1% で、全道より3.7ポイント、全国より5.7ポイント低くなっています。
(63)	「理科の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の74.1%，全国の75.2% に対して石狩市は70.3% と、全道より3.8ポイント、全国より4.9ポイント低くなっています。
(64)	「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」についての肯定的な回答は、全道の48.7%，全国の52.7% に対して石狩市は51.5% で、全道より2.8ポイント高く、全国より1.2ポイント低くなっています。
(65)	「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の58.2%，全国の61.5% に対して石狩市は54.1% で、全道より4.1ポイント、全国より7.4ポイント低くなっています。

(66)	「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の20.6%、全国の22.1%に対して石狩市は20.6%と、全道と同じで、全国より1.5ポイント低くなっています。
(67)	「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」についての肯定的な回答は、全道の64.7%、全国の64.5%に対して石狩市は63.7%と、全道より1.0ポイント、全国より0.8ポイント低くなっています。
(68)	「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」についての肯定的な回答は、全道の79.5%、全国の78.9%に対して石狩市は72.1%と、全道より7.4ポイント、全国より6.8ポイント低くなっています。
(69)	「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」について、肯定的な回答は、全道の68.5%、全国の68.1%に対して石狩市は64.7%と、全道より3.8ポイント、全国より3.4ポイント低くなっています。
(理1)	「今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の72.4%、全国の74.0%に対して石狩市は68.2%と、全道より4.2ポイント、全国より5.8ポイント低くなっています。関連して、5問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の13.8%、全国の12.6%に対して石狩市は20.4%で、全道より6.6ポイント、全国より7.8ポイント高くなっています。